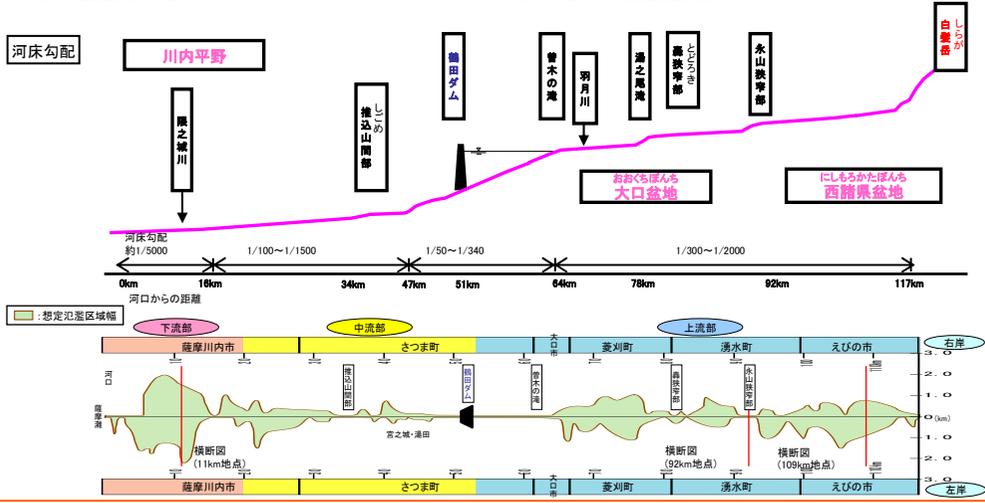
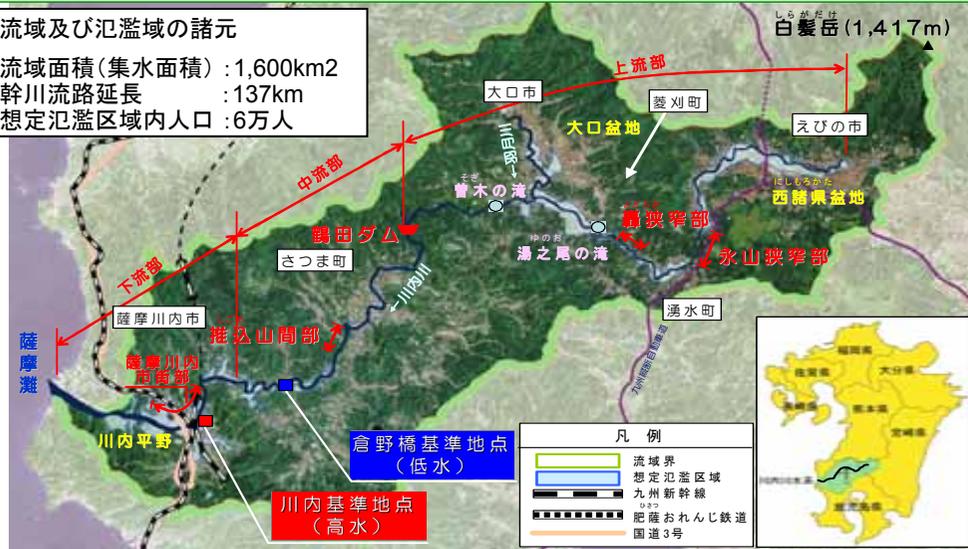


## 流域及び河川の概要

- 年平均降水量は約2,800mmで全国平均約1,700mmの約1.6倍と多い。
- 狭窄部を挟んで複数の盆地がひょうたん型に直列に繋がる地形で、盆地・平地に人口が集中し、ひとたび氾濫すると甚大な被害が発生。

### 流域及び氾濫域の諸元

流域面積(集水面積) : 1,600km<sup>2</sup>  
 幹川流路延長 : 137km  
 想定氾濫区域内人口 : 6万人

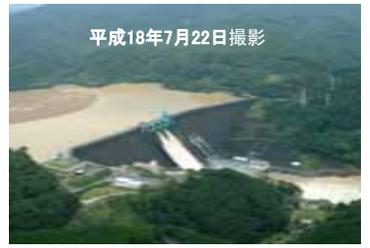
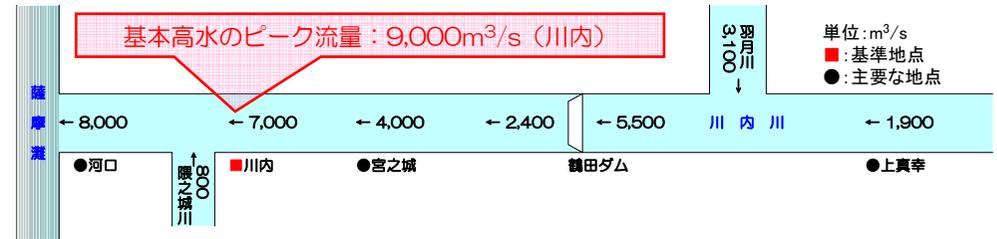


## 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

- 広域かつ合理的な水利用の促進を図るなど、今後とも関係機関と連携して必要な流量を確保する
- 倉野橋地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、概ね20m<sup>3</sup>/sとする

## 災害の発生防止又は軽減

- 平成18年7月洪水で宮之城地点で既定計画の洪水流量を超過し、全川の的に甚大な被害が発生したため、基本高水の見直しを行い、流量データによる確率からの検討、既往洪水からの検討等も行い基本高水のピーク流量を基準地点川内で9,000m<sup>3</sup>/sと設定



- 狭窄部を挟んで複数の盆地がひょうたん型に直列に繋がる特異な地形であることを踏まえ、水系全体としてバランスよく治水安全度を向上させる
- 基本高水流量と計画高水流量の差分については、上流部で遊水機能を活かした洪水調節施設、中流部で既設洪水調節施設の治水機能の向上及び新たな洪水調節施設により対応。
- 堤防の新設、拡築、河道掘削及び分水路の整備による河積を拡大。
- 河道や沿川の状況を踏まえ、治水対策を早期かつ効果的に進めるため、輪中堤や宅地嵩上げを実施
- 築堤材料として使用されているシラスの特徴を踏まえ、堤防の詳細点検を進めるとともに、効果的な堤防強化対策を検討。

## 河川環境の整備と保全

- 上流部では天然記念物であるチスジノリやカワゴケソウ等が生息しており、河道掘削にあたって掘削形状や施工方法等に配慮し、保全に努める
- 中流部では瀬、淵やワンド、礫河原等の多様な環境が形成されており、これらの環境の保全に努める



# 高梁川水系河川整備基本方針(案)の概要

## 流域及び河川の概要

- 下流部では、岡山県第二の都市である倉敷市・水島コンビナートなど、資産の集積する岡山平野の西端を貫流
- 想定氾濫域は、干拓等によって形成された洪水氾濫に脆弱な低平地で岡山市域まで及ぶ



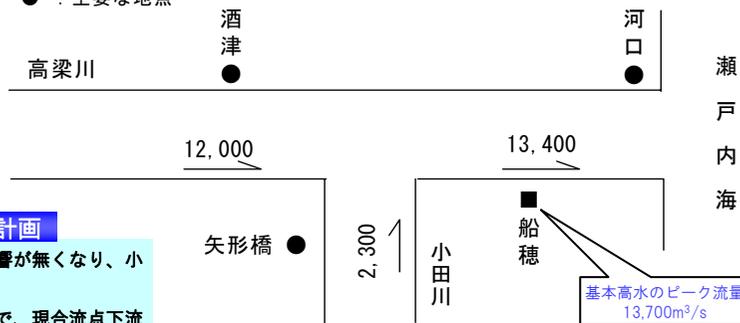
## 災害の発生の防止又は軽減

- 工事実施基本計画策定後に計画を変更するような出水は発生しておらず、流量確率(1/150相当)による検証、既往洪水からの検証等の検討結果を踏まえ、基本方針においても既定計画と同様に基本高水のピーク流量を13,700m<sup>3</sup>/s(船穂)と設定

### 【流量配分図】

(単位 : m<sup>3</sup>/s)

- : 基準地点
- : 主要な地点



### 小田川合流点付替え計画

- ◇ 洪水時の高梁川背水の影響が無くなり、小田川水位が低下
- ◇ 小田川を分流させることで、現合流点下流にある倉敷市街地の氾濫危険度を低減



- 基本高水流量と計画高水流量の差分については、既存施設の有効活用により対応
- 流下阻害の一因となっている固定堰を改築
- 堤防漏水の生じやすい箇所については、漏水対策や堤防強化を図る
- 小田川と高梁川の合流点を下流に変更することにより、洪水時の小田川水位を低下
- 河道掘削による河積確保にあたっては河道の維持等に配慮し、上流からの土砂供給等を監視・把握しながら計画的に実施

## 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

- 広域的かつ合理的な水利用の促進を図るなど、今後とも関係機関と連携し必要な流量の確保に努める
- 酒津地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、概ね16 m<sup>3</sup>/sとし、以て流水の適正な管理、円滑な水利使用、河川環境の保全等に資するものとする

## 河川環境の整備と保全

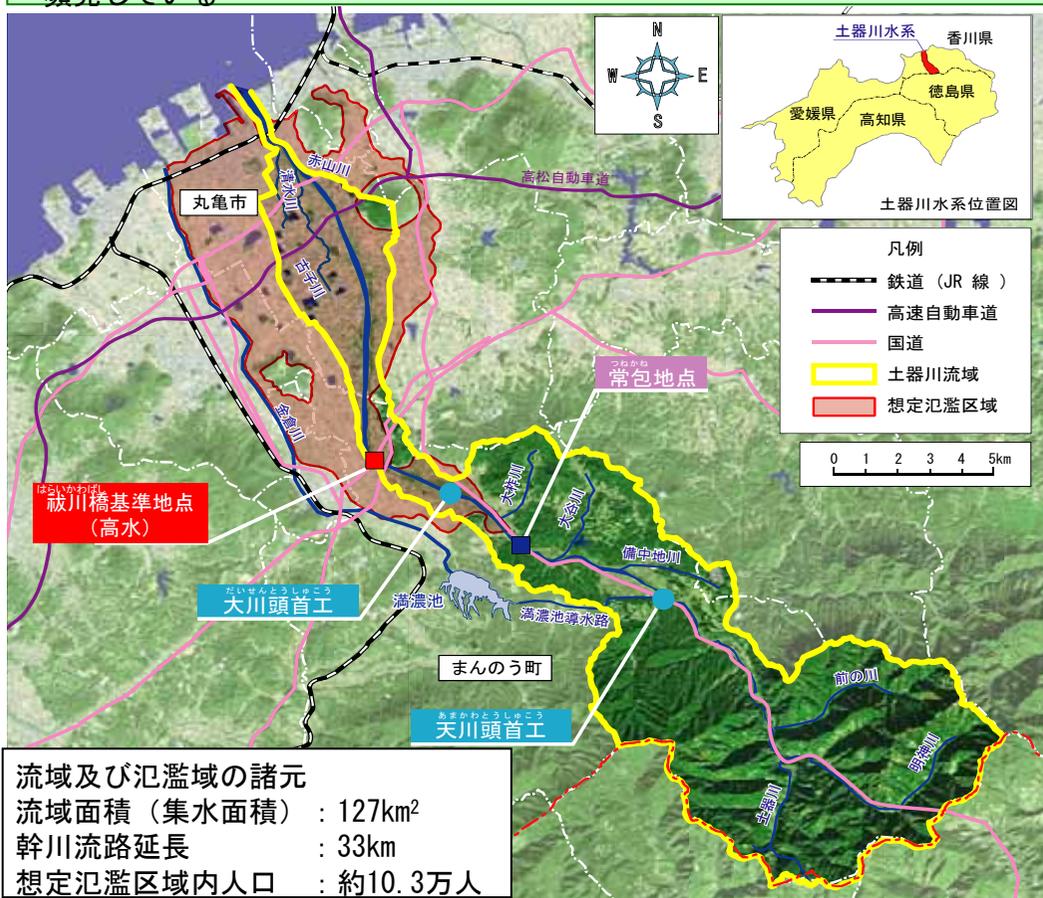
- アユなど回遊性魚類の遡上環境の確保や生息環境、タナゴなどの重要種の産卵場・生息場の保全に努める
- 帝釈峡をはじめとする渓谷部の景観の保全や下流部における地域の象徴としての河川景観の維持・形成に努める



# 土器川水系河川整備基本方針(案)の概要

## 流域及び河川の概要

- 河床勾配は下流部でも1/100~1/400程度であり有数の急流河川
- <sup>つねかね</sup>常包地点より下流は扇状地が形成されており、一度氾濫すると拡散型氾濫となり、香川県第二の都市丸亀市街地全域に被害が及ぶ
- 年平均降水量は約1,200mm(全国平均約1,700mm)と少なく、<sup>ですい</sup>出水など水量が乏しい地域特性に応じた取水形態が古くから行われ、下流では瀬切れが頻発している

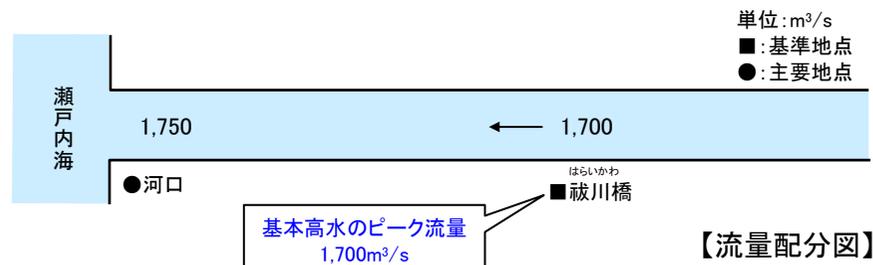


## 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

- 流水の正常な機能を維持するために必要な流量については、瀬切れの発生や独特な取水形態により定常的な取水となっていないことなどから、今後、河川及び流域における諸調査を踏まえ、流水が伏流している河川の特性と動植物の生息・生育に必要な流量との関係を把握するとともに、関係機関と連携し水利用の実態を把握した上で決定するものとする

## 災害の発生の防止又は軽減

- 工事実施基本計画策定後に計画を変更するような出水は発生しておらず、流量データによる確率からの検証、既往洪水からの検証等により、基本方針においても既定計画と同様に基本高水のピーク流量を基準地点祓川橋で1,700m<sup>3</sup>/sと設定



- 基本高水のピーク流量の全量を河道で分担
- 流下能力の向上を図るため、中流部では固定堰の改築や樹木伐開等を実施し、下流部では引堤等を実施
- みお筋が移動する急流河川であり、洗掘や侵食等を防止するため、高水敷幅を確保するとともに護岸の整備等を実施
- 現存する霞堤の保全に努める

## 河川環境の整備と保全

- 河畔林に囲まれ多様な環境が形成されている中流部では、河道掘削にあたって河畔林を一部存置等し水辺環境の保全に努める
- 河川水が伏流し瀬切れがみられる下流部では、ミゾコウジュ等がみられ、河道掘削にあたって既存のみお筋の保全や礫河原の変動に影響を及ぼさないよう配慮する

- 流域でのため池や出水と本川を結ぶ支川や農業用水路等の水路ネットワークの連続性を確保し、魚類の生息環境の維持に努める

